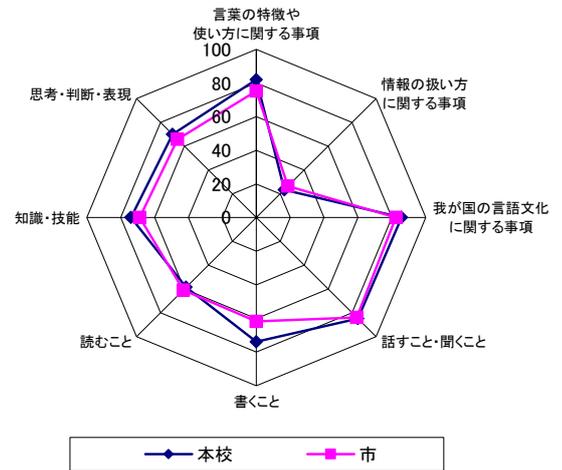


宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.1	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	23.4	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	85.7	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	84.8	83.9	84.2
	書くこと	73.8	61.7	64.5
	読むこと	58.7	60.9	61.0
観点別	知識・技能	73.9	68.8	70.3
	思考・判断・表現	70.0	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

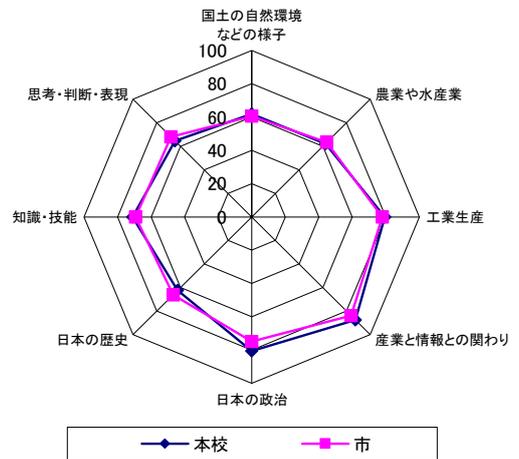
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、82.1%と市の正答率より高い。 ○「第5学年に配当されている漢字を正しく書いている」設問では、3問とも正答率が市の平均を上回っている。また、「第6学年に配当されている漢字を正しく読んでいる」設問では、「いさん」が正答率100%だった。 ○「文と文の接続の関係を理解している」設問では、長い一文を、接続語で区切って二文にする正答率が市の平均を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・音読、読書など漢字に多く触れる機会をもつとともに、漢字練習も継続的に行えるように指導していく。 ・漢字を覚える時には、様々な使い方、熟語として覚えられるように指導していく。また、文章を書く際には、学習した漢字を用いて文章を書く習慣が付くよう指導していく。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、23.4%と市の正答率とほぼ同じである。 ●「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している」設問では、資料をもとに、文字数に制限がある報告文の下書き作りの正答率が、市の平均を4.6ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語のほか、社会、理科、総合的な学習の時間などで調べ学習を行う際に、資料からわかることを、簡潔にまとめたり、要旨をまとめられるよう指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、85.7%と市の正答率とほぼ同じである。 ○「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している」設問では、日常使っている言葉を、和語、漢語、外来語に分類することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や読書の中で使われている語句や、日常使っている語句について、意味や語源を国語辞典で調べる活動を取り入れ、言語文化に対する興味・関心が継続的にもてるようにさせていく。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、84.8%と市の正答率とほぼ同じである。 ○「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている」設問では、目的意識をもって聞いたり、捉えた内容を自分の言葉で表現したりすることができ、良好な状況が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を聞くことはよくできているので、今後も最後まで話を聞く態度を育てていく。 ・国語だけでなく、様々な教科で話し合い活動を充実させるようにし、相手の話を聞くだけでなく、聞いた内容に対して自分どのような考えをもっているかを伝えられるようにし、表現力を向上させていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は73.8%であり、市の正答率を12.1ポイント上回っている。 ○「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」設問では、提示された条件に合わせて、2つの段落に分けて自分の考えを書くことができ、良好な状況が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・条件に合わせて文章を書くことはできるので、意見文などの文章を読む機会を増やしたり、文章を詳しく書くために必要なことを確認したりして、文章表現を豊かにする素地を養うようにする。 ・自分の考えを書かせる時間を積極的に取り入れたり、話し合い活動の中に書く時間を設けたりするなど工夫し、書く力を向上させていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、58.7%と市の正答率とほぼ同じである。 ○「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている」設問では、話し合っている人物の立場を捉えることができ、良好な状況が見られる。 ●「叙述を基に文章の内容を捉えている」設問では、市の平均を11.1ポイント下回っており、文章の内容を読み取ることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章全体の構成を捉えることはできているので、文章をまとめごとに内容を捉え、叙述を基に文章の内容を捉える力を向上させていく。 ・説明文、物語文ともに文章の内容を読み取ることに課題が見られるため、日ごろから読書の時間を定期的に設けることで文章に触れる時間を増やし、読む力を向上させていく。

宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	61.8	60.5	65.8
	農業や水産業	62.3	63.3	66.0
	工業生産	79.4	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	87.5	83.8	76.6
	日本の政治	80.6	74.9	74.1
	日本の歴史	62.5	66.3	68.3
観点別	知識・技能	71.1	69.3	71.4
	思考・判断・表現	64.7	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

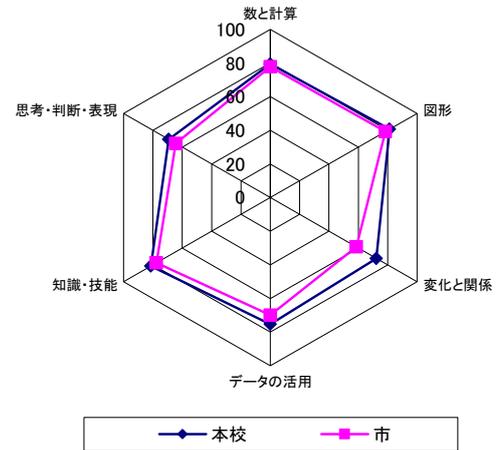
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、61.8%と市の正答率とほぼ同じである。 ○日本周辺の海洋名についての問題の正答率は84.2%で、市平均の正答率を9.9ポイント上回った。 ●季節風についての理解をもとに、太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取る問題の正答率は48.7%で、市平均の正答率を6.7ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・社会科の時間だけでなく、さまざまな機会を捉えて話題にあげ、取り上げた国の位置を地図で確かめさせたり、雨温図などの資料の解説をしりすることで、地理に対する関心を高め、自ら調べ、理解しようとする意欲と態度を育成するようにする。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、62.3%と市の正答率とほぼ同じである。 ○コメの品質を高める工夫についてよく理解しており、正答率は94.7%で、市平均の正答率を8.3ポイント上回った。 ●輸入などの外国との関わりにおける課題についての問題の正答率は53.9%で、市平均の正答率を13.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取り考察する力を育てるために、引き続き、資料を基に社会的事象について説明したり、自分の言葉でまとめたりする活動を、授業で積極的に取り入れるようにする。 ・日本の食料自給率や食料の輸入に関する事柄については、引き続き稲作体験や食育指導、家庭科と関連付けて指導していく。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、79.4%と市の正答率とほぼ同じである。 ○特に自動車の作業工程について答える問題の正答率は90%以上で、よく理解できていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の工業生産についての理解をさらに深めるために、機会を捉えて、身近な工業製品や環境保全の取り組み(再利用など)についての話題や資料を提供し、自分の生活と工業を結び付けて考えられるようにする。
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、87.5%と市の正答率とほぼ同じである。 ○インターネットを利用するときの注意点についてよく理解できていた。また、産業における情報活用に関する問題については、市平均の正答率を8.1ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、資料を読み取り考察する力を育てるために、資料を基に社会的事象について説明したり、自分の言葉でまとめたりする活動を、授業で積極的に取り入れるようにする。 ・インターネットを利用するときの注意点や情報活用などの理解を高めるために、情報モラルやデジタルシティズンシップに関する授業を社会科以外でも計画的に実施するようにする。
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、80.6%と市の正答率を5.7ポイント上回った。 ○すべての設問において市平均を上回った。特に日本国憲法の平和主義の基本的な考え方についてよく理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の基本的な考え方を理解し、日本国憲法と政治や経済が、自分たちの暮らしとどのようにつながっているのかについて考えたり調べたりする活動を、授業で積極的に取り入れるようにする。 ・自分たちの生活の場面やニュースなど身近な事象を話題にあげ、自分の生活が政治や経済と結び付けて考えられるようにする。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、62.5%と市の正答率とほぼ同じである。 ○大和朝廷による統一について資料を読み取り解答する問題の正答率は、市平均の正答率を9.8ポイント上回った。 ●鎌倉時代の政治についての問題や元寇に関する問題、豊臣秀吉の業績に関する問題の正答率は市平均を14ポイント以上下回り、各時代の特色の理解に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元や単元間における、時間の経過・事象や人々の相互関係に着目させるだけでなく、その時代の文化についても時代背景などから考えさせ、学習内容や自分の考えをまとめる活動を続けていく。

宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	79.5	77.7	78.6
	図形	81.3	78.4	74.4
	変化と関係	72.3	58.7	53.0
	データの活用	75.3	69.9	57.2
観点別	知識・技能	81.4	77.5	74.0
	思考・判断・表現	69.2	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

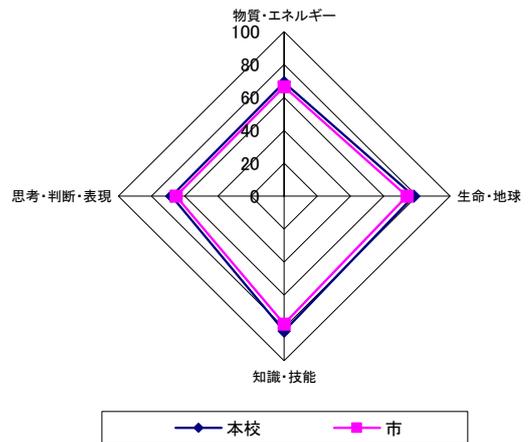
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、79.5%と市の正答率とほぼ同じである。 ○「小数の計算」における、小数の乗法の文章問題を表した図の構造をとらえる問題において、市平均の正答率を7.1ポイント上回っている。 ●「分数の計算」における基準量が分数の場合において、分数倍の比較量を求める問題では、市平均の正答率を4.4ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小数の計算については、数直線を活用して、立式する活動を繰り返し行ってきたことで、効果に現れていると考えられる。 ・基準量、比較量については、問題場面をイメージし、関係を図に表し数量の関係を捉えられるようにする。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、81.3%と市の正答率とほぼ同じである。 ○「面積と体積」において、ひし形の面積を求める問題では、市平均の正答率を7.3ポイント上回っている。 ●「対照な図形」において、点対称な図形の対称の中心についての問題では、市平均の正答率を3.5ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・点対称の図形については、図を描き、対称となる辺や点を見付けたり対称の中心を考えるといった実践の場を増やし、図形に慣れるような活動を引き続き行っていく。また、図形を描いた際は、図の中にメモを書きながら、対称な点や辺、対称の中心についての情報を整理する技能の定着が図れるようにする。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、72.3%で市の正答率を上回っている。 ○「単位量あたりの大きさ・速さ」において、速さの単位の関係を理解し、分速や時速に直す問題では、市平均の正答率を17.1ポイント上回っており、良好な状況が見られる。 ●「割合・割合のグラフ」において、円グラフから割合を読み取る問題では、市平均の正答率を1.8ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単位量あたりの大きさ・速さについては、復習問題に多く取り組むことで、単位量あたりの大きさ・速さに触れる機会を増やし身近に感じさせたことが効果に現れていると考えられる。 ・「割合・割合のグラフ」では、算数以外の教科や生活の中でも円グラフを活用した活動を増やすことで読み取る力の向上を図れるようにする。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は75.3%と市の正答率とほぼ同じである。 ○「平均・データの見方」において、ドットプロットから、最頻値と中央値を読み取る問題では、市平均の正答率を9.6ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平均の見方において、今後も日常生活から平均の見方についての経験値を増やしていく。

宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.0	66.5	66.3
	生命・地球	78.1	74.0	72.6
観点別	知識・技能	81.9	77.6	78.2
	思考・判断・表現	67.9	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>・領域の正答率は、69.0%と市の正答率とほぼ同じである。</p> <p>○「ふりこのきまり」で実験操作の誤りを説明する設問では、市の平均を12.3ポイント上回り、大変良好な状況が見られる。</p> <p>●「ふりこのきまり」の振り子の周期は振り子の長さによって決まることを説明する問題では、市の平均と同程度であるが、振り子の周期と振り子の長さの関係を正しく理解していない児童が一定数いる。</p>	<p>・問題の設定→予想と計画→観察・実験→結果→考察→まとめという学習過程の中で、文章で表現する活動を多くすることで、自分の言葉で説明する力を養っていく。</p> <p>・今までに学習したことの復習を時折行っていき、既習事項の定着を図る。</p>
生命・地球	<p>・領域の正答率は、78.1%と市の正答率とほぼ同じである。</p> <p>○「動物のからだのつくりとはたらき」の消化について理解できているかを問う問題では、市の平均を14.8ポイント上回り、大変良好な状況が見られる。</p> <p>●「水よう液の性質」で未知の水溶液を特定する実験の方法を計画する問題では、市の平均と同程度である。だが、今まで学習したことを基に考えることが難しい児童が一定数いる。</p>	<p>・それぞれの水溶液が何性か、またその特徴を理解していないと解けない問題であるため、既習事項の復習を行い、それぞれの水溶液の特徴について理解を深められるように支援する。</p> <p>・予想・計画を行う場面では、必要な実験手順や条件統制を考える活動を充実させ、適切な実験方法を考える力が養われるような授業を展開していく。</p>

宇都宮市立豊郷南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的な学習を通して、読解力・表現力を高める 国語科指導に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことと関連付けて、自分の意見や考えを書く。 ・相手の考えと自分の考えを比べながら聞く。 ・自分の考えを進んで表現し、相手のよさを取り入れながら、考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語「書くこと」領域において市の正答率と比べ、12.1ポイント高い。 ・「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている。」設問において市の正答率と比べ、4.6ポイント低い。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・6年生は、国・市の調査ともに、国語の「書くこと」の領域において、正答率が市の平均と比べて高くなり、表現力の育成に取り組んできた結果であると考えられる。一方で、4年生と5年生については、同じ領域において、低いまたは同程度であった。無回答の割合も高かったことから、次年度も継続して学校全体で、書くことに対して段階を追っていきながら、自分の考えを書く力を育成するための効果的な手立てについて研究していく必要があると考える。

・市の調査において、「新しく習ったことは、何度もくり返して練習している。」や「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」に肯定的に回答した児童の割合が複数の学年で市の割合を下回っているため、次年度は、学習がこなすものではなく、自分に必要なこととして捉えられるように、自主学習を活用して自分の課題を見付け取り組む指導を充実させる。